

戦争到来と空襲



県庁周辺の様子（昭和21年11月1日）昭和館提供

空襲の被害による空き地が目立つ一方で、現在にも面影を残す建物が残っています。

慣れ親しんだ人やまちが失われていく

昭和12（1937）年7月には日中戦争が、昭和16（1941）年には太平洋戦争が始まりました。戦況が悪化してくると、アメリカ軍による日本本土への空襲が相次ぐようになりました。

県内では、軍事施設があった横浜、川崎、横須賀だけでなく、軍事施設がなかった小田原、二宮、山北などでも、爆撃や戦闘機の機銃掃射による空襲を受けました。焼夷弾から発生する火災もあいまって、神奈川の多くの地域で甚大な被害が発生しました。



昭和館提供

空襲を受けた平塚の市街地（昭和20年9月9日）

旧国道1号線と不動通りの交差点付近。

中央奥に見える煙突は横須賀海軍工廠平塚分工場。



川崎市平和館所蔵

六郷橋付近からみた川崎市街（昭和20年）

中央は第一京浜国道。左側は現在の川崎競馬場の辺り。

川崎は度々空襲を受けましたが、昭和20年4月15日の大空襲では全市の30%が壊滅しました。



かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ